

個別の教育支援計画の充実事業報告

<委員>

大南 英明	全国特別支援教育推進連盟 理事長	専門委員
菅野 敦	東京学芸大学 教授	専門委員
近藤 正幸	国分寺市立第二中学校 校長	
川崎 勝久	新宿区立東戸山小学校 校長	
信方 壽幸	都立立川ろう学校 統括校長	
引間 宗人	都立北特別支援学校 統括校長	
座間 幸男	都立八王子盲学校 校長	
吉田 真理子	都立八王子特別支援学校 校長	

1 「学校生活支援シート」の開発

- * 本人・保護者が主体となるような項目名にし、シートについての簡単な説明を付けました。
- * 保護者の作成へのためらいや不安感を軽減するために、「シート」という親しみやすい名称にしました。

表面

学校生活支援シート (個別の教育支援計画)

平成 年度作成

このシートは、お子さんの学校生活を充実したものにするため、御家族と学校、関係する様々な立場の人が、お子さんをどのように支えていくか話し合い、記録していくものです。
お子さんが、充実した豊かな学校生活を送ることができるよう、学校での学習や家庭での生活について、一緒に考えていきましょう。

フリガナ		性別	学年・組
氏名	* 教師の側から意図を説明しやすく、保護者の側から記入内容がイメージしやすい項目名を工夫しました。また、()に内容の例を示しました。		
学校		校長名	
備考		担任名	

1 学校生活への期待や成長への願い (こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育てほしい、など)

本人から

保護者から

2 現在のお子さんの様子 (得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

* 児童・生徒の「良さ」を生かした支援が行えるように、新たに設定した項目です。

3 支援の目標

学校の指導・支援

家庭の支援

* 学校と家庭とが支援の目標を共有し、学校で行うこと、家庭でできる支援とを考慮することができるように項目の配置を整理しました。

児童・生徒名： 0

平成 年度作成

4 支援機関の支援

在籍校	年度 年度 年度	年 年 年	組 組 組	担任名： 担任名： 担任名：	<p>* 担任が変わっても児童・生徒の支援について引続き連携を図ることができるよう、前年度までの担任や児童・生徒との関わりが深い教員を記入する欄を設けました。</p>
	支援機関： 支援内容： 支援期間： ()~()			担当者：	
	支援機関： 支援内容： 支援期間： ()~()			担当者：	
	支援機関： 支援内容： 支援期間： ()~()			担当者： 連絡先：	
	支援機関： 支援内容： 支援期間： ()~()			担当者：	

* 支援機関との関わりや現在の状況を把握するため、支援を受けている期間を記入する欄を追加しました。

5 支援会議の記録

日時 平成 年 月 日 : ~ :	参加者：	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 : ~ :	参加者：	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 : ~ :	参加者	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 : ~ :	参加者	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 : ~ :	参加者	協議内容・引継事項等

6 成長の様子

	<p>* 支援の目標を振り返り、児童・生徒ができるようになったこと（成長の様子）や、効果的だった支援を整理し、次につなげることを意識した項目を設けました。</p>
7 来年度への引継ぎ	

以上の内容について了解し確認しました。

平成 年 月 日 保護者氏名 _____

シートの表面は、作成当初に、本人・保護者と話し合いながら記入する内容です。シートの裏面は、学校生活の中で必要に応じて追記していきましょう。

「学校生活支援シート」の記入例

小学校3年生で、通級指導学級を利用している児童の「学校生活支援シート」の記入例です。

本児童は、集団での学習に不安や緊張が強く、急な予定変更などへの対応が苦手です。学校でのストレスや不安からか、家庭で感情を爆発させることが多く、保護者は家庭での支援に悩んでいました。学級担任は、通級指導学級担当教員と連携しながら、保護者とともに「学校生活支援シート」を作成しました。

学校生活支援シート (個別の教育支援計画)

平成〇年度作成

このシートは、お子さんの学校生活を充実したものにするため、御家族と学校、関係する様々な立場の人がお子さんをどのように支えていくか話し合い、記録していくものです。
お子さんが、充実した豊かな学校生活を送ることができるよう、学校での学習や家庭での生活について、一緒に考えていきましょう。

フリガナ	〇〇 〇〇	性別	学年・組
氏名	〇〇 〇〇	男	3年□組
学校	〇〇立〇〇小学校	校長名	△△ △△
		担任名	〇〇 〇〇
備考			

1 学校生活への期待や成長への願い (こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育ってほしい)

本人から	勉強をがんばる。友達と仲よくしたい。
保護者から	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で楽しい生活を送ってほしい。 ・気持ちのコントロールができるようになってほしい。

面談を行い、保護者の気持ちや考えを受け止めながら記しました。
現在の児童の様子で心配な点について聞き取りながら、少しずつ良い面にも目を向けることができましたようにしました。

2 現在のお子さんの様子 (得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

- ・新しい学習や活動への抵抗感が強く、分からないこと、うまくできないことへの不安感が大きい。不安を感じると行動が止まってしまうことがある。
- ・集団生活への不安や緊張から、学校から帰ると家庭で感情を爆発させることがある。
- ・友達と仲良くしたい気持ちがあり、休み時間や放課後は友達と遊んでいることが多い。
- ・ゆっくりだが、まじめに最後まで頑張ることができる。

支援の目標を決めた後、家族で「家庭の支援」について考えてもらいました。
2回目の面談のときに、家庭でできる支援を聞き取り、記入しました。

3 支援の目標

◎学校や家庭で、安定した生活を送れるように支援をしていく。

学校の指導・支援	家庭の支援
○学校での不安感を少なくするために ・新しい活動の前には、どんな活動か、始まりと終わりの時間、活動の手順などを伝えて見通しをもたせる。 ・困ったときや分からないときに出すサインを決めて、授業中必要などときに支援できるようにする。	・疲れやイライラする様子が見られたら、ゆっくり休ませるようにする。 ・宿題や家庭での学習は無理のない範囲で少しずつ進める。 ・がんばったときやうまくできたことは、家族全員でほめる。

児童・生徒名： ○○ ○○		平成○年度作成
4 支援機関の支援		
在籍校	○年度 3年 ×組 年度 年 組 年度 年 組	担任名：○○ ○○ 担任名： 担任名：
通級指導学級	学校名： ○○学級 支援内容： 苦手な学習への取り組み方を指導する。分からない時や不安になったときの表現の仕方を学習する。 支援期間： (平成×年○月)～	担当者：○△ ○△ 連絡先：
医療機関	支援機関： ○○クリニック 支援内容： 定期的に通院。家での過ごし方や家族の接し方について相談する。 支援期間： ()～()	担当者：□□医師 連絡先：
	支援機関： 支援内容： 支援期間： ()～()	担当者：××さん 連絡先：
	支援機関： 支援内容： 支援期間： ()～()	担当者：○○先生 連絡先：
5 支援会議の記録		
日時 平成○年○月△日 ○：○○～○：○○	参加者：保護者、校長、副校長、担任、 養護教諭、特別支援教育コーディネーター、 通級担当	協議内容・引継事項等 ・学校・家庭での児童の様子を確認 ・当面の支援について
日時 平成○年×月○日 ○：○○～○：○○	参加者：保護者、担任、学年主任、特別 支援教育コーディネーター、通級担当、 □□医師	協議内容・引継事項等 ・家庭での様子について (宿題への取り組み方について確認)
日時 平成 年 月 日 ： ～：	参加者	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 ： ～：	参加者	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 ： ～：	参加者	協議内容・引継事項等
6 成長の様子		
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい活動への予告をし、見通しを持たせてきたことで、落ち着いて活動できる場面が多くなった。 ・授業中に分からない時に教師に送る合図を決めたことで、分からない時や困った時に助けを求められるようになってきた。 ・家庭でパニックを起こす回数が減り、穏やかに過ごす時間が増えた。 ・算数の学習に苦手意識があったため、放課後の時間や通級指導学級での指導で学習の補充を行った。 		
7 来年度への引き継ぎ		
<ul style="list-style-type: none"> ・課題の量を調節しながら、少しずつ家庭で学習や宿題に取り組む時間を増やすようにする。 ・授業中に送る合図を、今後も使っていく。(他の学級の担任、専科担当とも通じ合えるようにする。) ・算数の学習への配慮を引き続き行っていく。 		
<p>以上の内容について了解し確認しました。</p> <p style="text-align: right;">平成 ○年○月○日 保護者氏名</p>		

通級指導学級での指導との連携を図り、困ったときの表現の仕方などは、学級でも同じように対応できるようにしました。

年度末は、保護者とともに児童の様子を振り返り、できるようになったことや支援の様子を「成長の様子」として記しました。
また、特に効果的だった支援や次の学年への引継ぎ事項を整理しました。

(保護者から)

家庭での支援をどう考えればよいか迷いましたが、先生とお話をし、家庭でも考える時間をとっていただくことで、子供の良い面を見ながら穏やかな気持ちで作成に関わることができました。

できるようになったことを大切にしながら新しい学年を迎えたいと思います。



「学校生活支援シート」の作成例

事例 1

小学校3年生のAさん。両足に補装具を装用しており、移動の際には転倒などへの配慮が必要です。

保護者は、様々なことにチャレンジしてほしいと願っていますが、Aさんは、新しい活動や見通しのもてない学習に消極的で、友達が楽しそうに遊んでいる様子を遠くから眺めている場面が多く見られます。

そこで、学級担任のB先生は、「学校生活支援シート」を作成して全校の教員にAさんのことを知ってもらい、Aさんへの配慮事項や支援の手だてなどを共通理解して、みんなでAさんの豊かな学校生活を支えることができないかと考え、保護者に働きかけてみることにしました。

B先生



Aさんが、毎日笑顔で過ごすことができるよう、全校の先生方にAさんのことを知ってもらい、みんなでAさんの学校生活を支えていきたいと思います。
そのために、「学校生活支援シート」を作成したいのですが、いかがでしょうか。

ご配慮は嬉しいです。ただ、必要以上に「特別扱い」はしてもらいたくありません。できることはできるだけ自分でやらせたいと思っています。
でも、私も心配なことはあるので…。



保護者

面談の実施

校長

- 当日の面談には校長先生も参加し、「学校としてAさんを支えていきたい」ことを保護者に伝えました。保護者も、校長先生の言葉を聞いて安心した様子で、「学校生活支援シート」の作成に同意してくれました。

記入内容や、教員間の情報共有の在り方については、保護者と十分に相談して決めていきます。

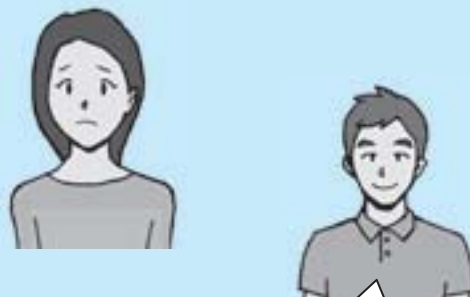


先生方が、子供のことを思って「学校生活支援シート」の作成を勧めてくれていることがよく分かりました。



保護者や本人の願いの把握

- 友達の輪に入って、みんなと一緒に勉強したり、遊んだりできるようにしてほしいです。
- でも、本人は自分から周囲に積極的に働きかけるタイプではないので、友達とうまくやっていけるか心配です。



友達と仲良くしたいけど、転ぶと怖いから、運動や外で遊ぶことはあまりしたくないな…。



Aさん

Aさん自身の気持ちも聞いてみましょう。
私達は、Aさんが安全で楽しい学校生活を送ってほしいと願っています。

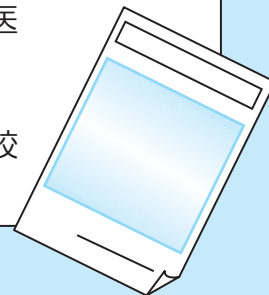
専門家との連携



- Aさんは、転ぶことをかなり心配しているので、Aさんの主治医から、学校生活での配慮事項や、Aさんの今の障害の状態でも「できること」などについてアドバイスをもらい、学校での対応の仕方や指導の工夫に役立てることにしました。



- 子供の障害の状態や配慮事項について、学級担任と主治医とが直接会って話をしてもらうことができ良かったです。
- 「学校生活支援シート」にも、主治医から得たアドバイスが反映されていて、とても安心しました。
- 家庭でも、子供への対応の仕方を学校に合わせていきたいと思います。



「学校生活支援シート」の作成例参照

Aさんの「学校生活支援シート」作成例
(作成当初)

学校生活支援シート
(個別の教育支援計画)

平成〇年度作成

このシートは、お子さんの学校生活を充実したものにするため、御家族と学校、関係する様々な立場の人が、お子さんをどのように支えていくか話し合い、記録していくものです。
お子さんが、充実した豊かな学校生活を送ることができるよう、学校での学習や家庭での生活について、一緒に考えていきましょう。

フリガナ	〇〇 〇〇	性別	学年・組
氏名	〇〇 〇〇	男	3年〇組
学校	〇〇立〇〇小学校	校長名	□□ □□
		担任名	△△ △△
備考			

1 学校生活への期待や成長への願い (こんな学校生活がしたい、こんな子供 (大人) に育ててほしい、など)

本人から	・先生や友達と楽しく学校生活を送る。
保護者から	・安全面での配慮を希望する。 ・失敗を恐れ、不安感が強くないよう明るい見通しをもたせたい。 ・自分でできることは人に頼らずに頑張してほしい。できないときは、自分で声をかけてお願いし、感謝できるようになってほしい。

2 現在のお子さんの様子 (得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

<ul style="list-style-type: none"> ・両足に装具を着用している。歩行が不安定なため、転倒しないように注意が必要。 ・歩くのに時間がかかる。 ・登校時は保護者が付き添い、補助輪付き自転車を使用している。 ・失敗することを恐れ、少しでも不安なことがあると自分から行動しようとしなない。 ・家では、できることや得意なことには積極的に取り組むことができる。 ・年下の子に順番をゆずってあげるなど、友達にやさしくすることができる。

3 支援の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・安全に配慮し、Aさんが安心して学校生活を送ることができるようにする。 ・集団の中で、自信をもって楽しく学習できるように支援する。 	
学校の指導・支援	家庭の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・できることは時間がかかってもよいから自分で行うように励ます。 ・教室移動は、授業の開始時刻に間に合うように、少し早めに移動を始めることができるように促す。 ・教室や校内での安全を考慮し、座席やロッカー、靴箱の位置などを工夫する。(詳しくは別紙) ・クラス全体に、安全についての指導を行い、Aさんへの配慮が理解できるようにする。 ・緊急時は、担任または隣のクラスの担任が体を支えながら移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題への取り組みに時間がかかるため、時間を区切って取り組ませる。 ・最後までやりとげるまで見守り、できたことをほめるようにする。

年度当初は通院している病院と担当医師の名前を記入しました。

児童・生徒名： ○○ ○○		平成○年度作成	
4 支援機関の支援			
在籍校	○年度 2年 ○組 ○年度 3年 ○組 年度 年 組	担任名：○○ ○○ 担任名：△△ △△ 担任名：	
病院	支援機関： ○○医療センター 支援内容： 整形、発達検診 支援期間： ()~()	担当者：○○医師	連絡先：
	支援機関： 支援内容： 支援期間： ()~()	担当者：	連絡先：
	支援機関： 支援内容： 支援期間： ()~()	担当者：	連絡先：
	支援機関： 支援内容： 支援期間： ()~()	担当者：	連絡先：

5 支援会議の記録		
日時 平成 年 月 日 ： ~ ：	参加者：	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 ： ~ ：	参加者：	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 ： ~ ：	参加者	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 ： ~ ：	参加者	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 ： ~ ：	参加者	協議内容・引継事項等

6 成長の様子

7 来年度への引き継ぎ

以上の内容について了解し確認しました。

平成 ○年○月○ 保護者氏名 _____

計画に基づいた支援

- (1) できることは時間がかかってもよいから自分で行うように励まし、できた時には、学級のみinnで褒めるようにしました。
 - ・ 保護者と本人の了解を得て、学級の他の児童に、Aさんに必要な配慮について説明しました。児童たちは説明をよく理解し、Aさんへの関わり方に変化が見られるようになりました。
- (2) 避難訓練の際などには、隣の学級の担任教員の協力を得てAさんの体を支えるなどして、一緒に行動するようにしました。
 - ・ その結果、隣の学級の先生や児童達も、Aさんに声をかけてくれる場面が多くなりました。Aさんもととても嬉しそうでした。
- (3) 安全に配慮し、教室内の座席やロッカー、靴箱の位置などを工夫しました。



★ 主治医のアドバイスを得たことで、支援のヒントが見つかりました。



○ 家庭でも、最後までやり遂げる姿を見守り、できたら褒めるようにしました。

Aさんの変化

笑顔がとても増えました。学校での出来事を笑顔で話しています。

これなら、4年生になったら、もう少しお兄さんに成長してくれそうで楽しみです。



- 学校でも笑顔が多くなりました。
- うまくできない事は、自分から友達にお願いして助けてもらうことができるようになってきました。
- 友達にも、「Aさんと一緒」という気持ちが育ってきたようです。

★ 必要なことは来年度に必ず引継ぎます。安心してください。



- 先生と一緒に「学校生活支援シート」を作成する過程で、子供と関わってくれている多くの人達の存在に改めて気付きました。
- 「いろいろな人が子供を支えていてくれる」という安心感をもつことができました。

4 支援機関の支援			
在籍校	○年度	2年	○組 担任名：○○ ○○
	○年度	3年	○組 担任名：△△ △△
	年度	年	組 担任名：
病院	支援機関：	○○医療センター 担当者：○○医師 連絡先：	
	支援内容：	整形、発達検診	
	支援期間：	()～()	
療育	支援機関：	○○ひろば(放課後デイサービス) 担当者：○○さん、△△さん 連絡先：	
	支援内容：	月2回参加。いろいろな運動や学習に取り組んでいる。	
	支援期間：	()～()	
療育	支援機関：	療育機関○○ 担当者：××さん 連絡先：	
	支援内容：	親子で参加。話をきき、気持ちを落ち着ける場所になるようにしている。	
	支援期間：	()～()	
地域	支援機関：	○○クラブ 担当者：○○先生 連絡先：	
	支援内容：	休日に参加。友達との体をつかった遊びを通して、体づくりや人との関わり方を支援している。	
	支援期間：	()～()	

5 支援会議の記録		
日時 平成○年○月○日 ○：○○～○：○○	参加者： 保護者、担任、養護教諭、○○医師	協議内容・引継事項等 Aさんの障害の状態について、配慮事項について
日時 平成○年○月○日 ○：○○～○：○○	参加者： 担任、3学年担任、養護教諭、副校長	協議内容・引継事項等 学校行事等への参加の仕方について
日時 平成○年○月○日 ○：○○～○：○○	参加者： 保護者、担任、養護教諭、校長、副校長	協議内容・引継事項等 今年度のまとめと来年度の支援について
日時 平成 年 月 日 ： ～ ：	参加者	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 ： ～ ：	参加者	協議内容・引継事項等

6 成長の様子
<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で過ごす様子が多く見られるようになった。うまくできないことを自分から友達にお願いして助けてもらうことも増えてきた。 ・みんなと同じように活動したいという意欲が高まったため、体育の授業や運動会でも、できるだけ他の児童と同じ内容や方法で取り組めるようにした。 ・移動や活動の途中で声をかけると、動きが止まってしまうたり、途中でやめてしまったりするので、集中しているときは様子を見守り、区切りがついたところで声をかけるようにした。
7 来年度への引き継ぎ
<p>◎教室内で安全に過ごすことができるように、座席やロッカーの配置を配慮する。また、教室移動の距離や回数が少なくなるように、使用する教室や時間割を調整してもらう。</p> <p>→座席、ロッカー等の配置は引継ぎの際に別紙で示す。</p> <p>時間割やグループ学習で使用する教室は、校内の委員会で検討する。</p> <p>◎体育や運動会は、Aさんも意欲的でみんなと一緒に活動しようと頑張っていた。今年度の配慮を来年度も行えるようにする。</p> <p>◎4年生の社会科見学では、見学先の様子や移動方法について、事前に保護者と十分相談する。</p>

以上の内容について了解し確認しました。

平成 ○年○月○日 保護者氏名 _____

○ 年度末には、保護者とともに児童の成長の様子（6）を確認し、必要な支援の手だてを次年度に確実に引継ぐ（7）ことが大切です。



次の学年の指導・支援へ

事例 2

小学校5年生のCさん。集団の中で気持ちや行動をコントロールすることが苦手で、なかなか授業に集中できないことがありましたが、4年生の4月から通級指導学級の利用を開始し、定期的に支援を受けるようになったことで、学級でも落ち着いて授業を受けることができるようになってきました。

5年生になり、新しく担任になったD先生は、4年生のときの様子を引継ぎ、Cさんが活躍できる場面を広げるために「学校生活支援シート」を作成し、通級指導学級での支援を学校で共有していきたいと考えました。

面談の実施

D先生



通級指導学級の担当教員にも保護者との面談に参加してもらい、Cさんの支援の手だてについて助言をもらいました。

4年生のときは、毎朝「今日のめあて」を決めて、連絡帳に書いていたそうですね。今年度も続けていきたいと思いますので「学校生活支援シート」に記しておきます。

通級指導学級では、友達と一緒に過ごすときのルールについて学習しています。学習内容やCさんの様子について、連絡帳に記入しますので、学級と家庭とで共有できるようにしましょう。



通級指導学級の担当教員

計画に基づいた支援

- (1) 教室の隣の個室を「クールダウンの部屋」とし、支援員や隣のクラスの担任教員と連携しながら、Cさんが必要な時はすぐに利用できるようにしました。
- (2) 登校したら、Cさんと相談して連絡帳に今日のめあてを書き、守れたら下校時に「○」をつけることにしました。自信や達成感がもてるように、めあては、Cさんが必ずできそうな具体的内容を書くようにしました。
- (3) Cさんが通級による指導から戻ってきたときには、学級のみんなであたたかく迎えるようにしました。通級指導学級の担当教員とは、電話や連絡帳を通じてCさんの様子について情報交換を密にしました。



保護者

■ 毎日連絡帳を見て、めあてに○が付いたら必ず褒めるようにしました。簡単なことでも、頑張ったことや守れた約束をほめるようにしたことで、「もっと頑張ろう」と思うようになったようです。

Cさんの「学校生活支援シート」

1 学校生活への期待や成長への願い（こんな学校生活がしたい、こんな子供（大人）に育ててほしい、など）

本人から	友達と仲良くして、楽しく過ごしたい。
保護者から	集団の中に入って、みんなと一緒に学習できるようになってほしい。

2 現在のお子さんの様子（得意なこと・頑張っていること、不安なことなど）

- ・気持ちが落ち着かなくなり、教室での授業に参加できなくなってしまうことがある。
- ・友達と仲良く過ごせることも多いが、一度トラブルになると、気持ちをコントロールできなくなることがある。
- ・気持ちが落ち着いているときは、教師や友達とよいかかわりをもつことができる。
- ・家庭では、以前に比べるとパニックになることは減り、いらいらする気持ちからの切り替えが早くできるようになってきた。

3 支援の目標

気持ちや行動をコントロールして、集団生活にふさわしい行動ができるようにする。

学校の指導・支援	家庭の支援
<p>○教室の近くに、Cさんが落ち着くまで過ごすことができる場所を用意する。(○○室)</p> <p>○連絡帳に、その日やることやめあてを書き、下校時に達成できためあてに「○」をつけて、努力したことや頑張ったことを評価する。</p> <p>○校内の通級指導学級担当者と連携をとり、一日一回はCさんの話をじっくり聞く時間をとる。</p>	<p>○いらいらしているときは頭ごなしに叱るのではなく、一つ一つ状況を整理しながら気持ちを聞いたり、どうするとよかったかを考えさせたりして、落ち着かせるようにする。</p> <p>○連絡帳を見てめあてに「○」がついていたら必ずほめる。小さなことでも約束が守れたらほめるようにする。</p>

4 支援機関の支援

在籍校	○年度	5年	○組	担任名：○○ ○○
	年度	年	組	担任名：
	年度	年	組	担任名：
通級指導学級	支援機関：	○○小学校△△学級	担当者：□□ □□	連絡先：
	支援内容：	気持ちや行動のコントロールの仕方や友達と一緒に過ごすときのルールを学習する。		
	支援期間：	(平成△年4月)～()		
医療機関	支援機関：	□□クリニック	担当者：○○先生	連絡先：
	支援内容：	定期的に通院。平成△年3月から ○○を服用。平成□年10月から△△も並行して服用。		
	支援期間：	()～()		
医療機関	支援機関：	○○センター	担当者：△△先生	連絡先：
	支援内容：	定期的に通院。服薬について継続して相談している。		
	支援期間：	()～()		
	支援機関：		担当者：	連絡先：
	支援内容：			
	支援期間：	()～()		

5 支援会議の記録

日時 平成○年○月×日 ○：○○～○：○○	参加者：校長、担任、特別支援教育 コーディネーター、支援員	協議内容・引継事項等 今後の支援の方向性について確認
-----------------------------	----------------------------------	-------------------------------

事例 3

中学校2年のEさん。入学当初は小学校生活との違いに戸惑い、気持ちが不安定になりがちでしたが、「学校生活支援シート」を作成し、それぞれの学習場面で見通しをもてる支援が行われるようになり、次第に落ち着いて学習に取り組むことができるようになってきました。

学年末に当たり、担任のF先生は、保護者とともにこの2年間のEさんの成長を振り返り、効果的だった支援を来年度につなげたいと考えました。

F先生



Eさんは、最近は落ち着いて学習する場面が増えてきました。1年間でできるようになったことがたくさんあります。Eさんの成長の様子を振り返り、次年度に確実に引継ぎましょう。

【入学当初のEさんの様子】

- 新しい学校生活への不安が強く見られ、新しい活動などで少しでも見通しがないと大きな声を出し、その場から動けなくなってしまうことがありました。



【Eさんへの支援】

- 問題のある行動が見られたときは、担任や教科担当教員が、Eさんの思いや考えをよく聞いてから指導するようにしました。
- 周囲に誤解を与えたり人を傷つけたりするような言い方をしたときは、場面の状況にふさわしい言い方をその場で指導し、すぐに言い直させるようにしました。
- 家庭でも、Eさんの不安な気持ちを受けとめ、穏やかに生活できるようにしました。



【Eさんの変化】

- 気持ちの切り替えが早くなり、落ち着いて学習に取り組むことができる時間が長くなりました。
- 周囲の友達とのトラブルが少なくなりました。



効果のあった支援の手だては継続しましょう。4月からは3年生です。卒業後を見通して支援の目標を見直していけるようにしましょう。

家庭では、まだまだ情緒不安定になることはありますが、親が落ち着いて受け止めることで本人も気持ちが切り替えられるようになってきました。3年生になったら高校進学に向けてもう一歩成長できるとよいと思います。



保護者

- 「学校生活支援シート」を活用することで、生徒の成長を振り返ることや、効果のあった支援の手だて、次の目標などを整理することができます。
- 特に、初めて「学校生活支援シート」を作成した年度や、進学等を控えた節目の年度には丁寧にこれまでの支援を振り返り、次のステップにつなげられるようにします。

Eさんの「学校生活支援シート」

1 学校生活への期待や成長への願い（こんな学校生活がしたい、こんな子供（大人）に育ててほしい、など）

本人から	中学生らしくなりたい。
保護者から	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校生活の見通しをもち、おだやかにすごしながら知識を深めてほしい。 ・学校でいろいろな体験をし、自立に向けてのスキルを身に付けてほしい。

2 現在のお子さんの様子（得意なこと・頑張っていること、不安なことなど）

- ・小学校生活は慣れていたので、滞りなく過ごすことができていましたが、中学校に入学して初めてのことが多く、不安を感じているようです。
- ・新しいことや見通しのもてないことには不安や緊張が強く、大声を出したりその場から動けなくなってしまう。
- ・細かい作業が得意で、絵を描くことや粘土で作品を作ることが大好きです。

3 支援の目標

- ・見通しがもてるように説明し、落ち着いて行動できるようにします。
- ・その場に応じた言葉遣いができるように支援します。
- ・場面や相手に合わせて気持ちをコントロールしたり、考えてから発言できるように支援します。

学校の指導・支援	家庭の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力を高め、集団生活が円滑に行うことができるよう、気持ちや考えをよく聞き取り、本人が納得して行動できるようにします。 ・多様な場面を一つ一つ教員と一緒に振り返り、人とのより良い関わり方を身に付けていけるようにします。 ・得意なこと（絵、造形）を生かして活躍できるよう、教科担当者間で連絡を取り合って指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてのことは不安になってうまくいかないのは当然のことだと伝え、落ち着いて対処できるよう支援したいと思います。

（中略）



6 成長の様子

- ・1年生では思ったことを言葉にすることが周囲とのトラブルにつながっていましたが、Eさんの気持ちを汲みながら、ふさわしい言い方で表現しなおすように指導することで、周囲との関係も徐々によくなりました。
- ・2年生になると、話す人への視線と姿勢を意識できるようになりました。また、失敗しても混乱せずに対処できる場面が増え、言葉をかけるだけで混乱が収まるようになっていきます。
- ・得意な美術の授業で、周囲に認められたことが自信になり、態度や言葉遣いに落ち着きが見られるようになりました。

7 来年度への引継ぎ

- 新しい学習や初めての活動に向かうときに、活動の流れや到達点がイメージできると安心して取り組みます。まずは学習の前の言葉かけを丁寧に行う支援を継続してください。
- ◎中学校卒業後の進路や社会自立に向けた本人の意識を高めるために、計画的に指導を進めていく必要があります。来年度は、支援の目標を見直し、進路を意識した指導や支援を行っていくことが必要です。

「学校生活支援シート」を活用した引継ぎ例

事例 1

小学校6年生のAさん。学習や生活への見通しがもてないと不安や緊張を強く感じ、体調を崩すこともありました。Aさんが安心して学校生活を送ることができるように、小学校ではAさんの「学校生活支援シート」を作成して支援を行ってきました。

今、Aさん親子の最大の関心事は中学校生活です。Aさんは、部活動で活躍することに憧れていますが、新しい人間関係に不安もあるようです。保護者は、Aさんが環境の変化にうまく適応できるかを心配しています。

担任のB先生は、中学校に「学校生活支援シート」を引継ぎ、Aさんに必要な支援について、十分に理解してもらうことが大切であると考えました。

B先生



小学校では「学校生活支援シート」を通じて、みんながAさんのことを理解し、Aさんが見通しをもって活動できるような支援を工夫してきました。そして、Aさんも、落ち着いてよく考え、主体的に行動する場面が増えてきました。

「学校生活支援シート」を中学校に引継ぎ、Aさんが環境の変化にうまく適応できるよう、中学校の先生に支援をお願いしましょう。

中学校に引き継いでもらえるのはありがたいのですが、小学校で「学校生活支援シート」を作っていることを伝えることで特別扱いされるのではないかと心配です。

保護者



○ 小学校の特別支援教育コーディネーターから、進学先のC中学校でも「学校生活支援シート」を作成し、生徒に応じた支援の手だてを工夫していること、「学校生活支援シート」を作成している児童については個別に時間を設けて引継ぎや話し合いを行うことを説明してもらいました。

特別支援教育
コーディネーター



情報共有の仕方
や引継ぎ方法につ
いて、中学校の特
別支援教育コーデ
ィネーターと相談
します。

シートを示すこと
でより丁寧に引き継
いでもらえることが
分かりました。



中学校との引継ぎ

- 小学校と中学校の特別支援教育コーディネーター間で調整し、小学校と中学校の連絡会の後、個別にAさんの引継ぎ会を行うことにしました。

引継ぎ会

実施日：3月〇日（約1時間）

参加者：・保護者

・小学校関係者 2名
（担任、特別支援教育コーディネーター）

・中学校関係者 4名
（校長、副校長、養護教諭、特別支援教育コーディネーター）

進行は、中学校の特別支援教育コーディネーターが行いました。



校長

中学校でも「学校生活支援シート」を作成し、学校としてAさんを支えていきますので御安心ください。

学習への意欲が高まり、苦手な学習にも、自分から取り組もうとするようになってきました。中学校でも、学習や活動への見通しを示し、Aさんが自信をもって活動できるようにしてください。



効果的だった支援の手だてについて教えてください。中学校でも継続したいと思います。

効果的だった支援の手だて

- (1) 一日の生活や一時間ごとの学習の流れを視覚的に分かりやすく示したことで、学習や活動の見通しをもつことができました。
- (2) 指示や説明を理解できたか確認できるように、座席を前の方に配置しました。
- (3) 家庭での学習は、学校で十分理解できた内容を復習するようにし、できたことを認め、ほめてもらえるようにしました。



担任、教科担当者とともに相談し、Aさんが安心できる座席の配置を工夫していきましょう。体調について、医師の意見も聞けるとよいですね。

■ 子供のことをよく聞いてもらえ、安心しました。中学校に入学したらすぐに「学校生活支援シート」をつくってもらえることになり、新しい学校生活がスムーズに始められそうです。



学校生活支援シート
(個別の教育支援計画)

平成〇年度作成

このシートは、お子さんの学校生活を充実したものにすため、御家族と学校、関係する様々な立場の人が、お子さんをどのように支えていくか話し合い、記録していくものです。
お子さんが、充実した豊かな学校生活を送ることができるよう、学校での学習や家庭での生活について、一緒に考えていきましょう。

フリガナ		性別	学年・組
氏名	〇〇 〇〇	男	6年〇組
学校	〇〇立〇〇小学校	校長名	〇〇 〇〇
		担任名	□□ □□
備考			

1 学校生活への期待や成長への願い (こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育ててほしい、など)

本人から	友達と仲良くしたい。テストで、もっと高得点をとれるようになりたい。
保護者から	中学校に向け、人との関わりの中で、自分の思いをきちんと伝えられるようになってほしい。集中して学習に取り組めるようになってほしい。

2 現在のお子さんの様子 (得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

- ・どんな時でも自分から進んで挨拶をすることができる。
- ・学校であったことを両親とよく話しており、自分の言動を冷静に振り返る姿勢が育ちつつある。
- ・休み時間はサッカーをして過ごし、体を動かすことが好きである。
- ・見通しが立たないことへの不安感が強く、場合によっては、食欲を失うほどである。
- ・不安が強いと言葉数が増え、落ち着かなくなり、個別の支援が必要である。
- ・整理整頓が苦手である。
- ・友達の誘いを断ることができず、放課後など、遊びの中でトラブルに巻き込まれることが多い。

3 支援の目標

- ・自分で見通しを立てながら行動することができるように支援していく。
- ・不安になったときの気持ちのコントロールができるように支援していく。

学校の指導・支援	家庭の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、一日の流れを黒板で確認する。また、各教科の授業では、はじめに学習の流れをカードで示し、見通しがもてるようにする。 ・指示や説明の理解が確認できるよう、座席を配慮する。 ・落ち着いて自分の思いをしっかりと伝えられるよう、友達同士などのトラブル解決のための時間をしっかり確保していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での学習などの確認を一緒にしたり、準備や片付けなどの声かけをしていきながら、整理整頓や準備が自力でできるようにしていく。 ・一日の振り返りの中で、落ち着いて行動をとることができたことがあれば、その頑張りを認め、褒めていく。 ・学校でよくできた学習は、家庭でも復習し、できたことを褒める。

4 支援機関の支援			
在籍校	○年度 年度 年度	6年 年 年	□組 組 組 担任名：○○ ○○ 担任名： 担任名：
余暇	支援機関： 支援内容： 支援期間：	○○サッカークラブ 休日に地域の小・中学生とともに活動。 ()~()	担当者：△△コーチ、××さん 連絡先：
	支援機関： 支援内容： 支援期間：		担当者： 連絡先：
	支援機関： 支援内容： 支援期間：		担当者： 連絡先：
	支援機関： 支援内容： 支援期間：		担当者： 連絡先：

5 支援会議の記録		
日時 平成○年○月○日 ○：○○～○：○○	参加者：保護者、校長、副校長、担任、養護教諭、支援員	協議内容・引継事項等 ・今年度の支援について
日時 平成○年○月○日 ○：○○～○：○○	参加者：校長、副校長、担任、養護教諭、支援員	協議内容・引継事項等 ・当面の支援について ・支援の様子の確認
日時 平成○年○月○日 ○：○○～○：○○	参加者：保護者、校長、副校長、担任、養護教諭、支援員	協議内容・引継事項等 ・今年度の支援について ・来年度に向けて（支援の引継ぎ方の相談）
日時 平成 年 月 日 ： ~ ：	参加者	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 ： ~ ：	参加者	協議内容・引継事項等

6 成長の様子
<ul style="list-style-type: none"> ・継続してやり遂げたことを十分に認めたことで自信が付き、学習への意欲が高まった。特に6月以降、宿題を忘れたことはなく、周囲からも称賛され、本人の自信にもつながった。 ・家庭と連携して取り組み方や時間を決めたとこ、苦手だった毎日の10問漢字テストで10月より高得点をとれるようになった。また、単元末の算数テストでも満点をとれることが増え、学習意欲が高まり苦手なことにも自分から取り組むようになった。 ・どんなトラブルがあっても、自分の思いをしっかりと伝えられるよう時間を確保したところ、3学期には自分の意思を隠せず表現できるようになり、気持ちが安定した毎日を過ごすことができた。 ・最高学年として下級生の手伝いをし、感謝されることがうれしく、奉仕活動にも意欲的に取り組むことができた。
7 来年度へ引き継ぐこと
<ul style="list-style-type: none"> ・見通しが立たないことには不安感が強く、心理・体調面にも影響が出るので、個別に事前連絡することが必要である。 ・学習内容で理解できない点は、個別で対応し、丁寧に説明する必要がある。 ・指示が聞き取りやすく確認ができやすいよう、前方の席がよい。

以上の内容について了解し確認しました。

平成 年 月 日 保護者氏名 _____

事例2

小学校6年生のDさん。これまで通級指導学級を利用してコミュニケーションに関する指導を行ってきた成果により、落ち着いて学習に取り組むことができるようになってきました。4月からは中学校に進学し、通常の学級の中で必要な支援を受けながら学習することになります。

担任のE先生は、中学校との引継ぎ会を行い、これまで行って来た支援を中学校でも続けて受けられるようにしたいと考えました。そこで、教員間の引継ぎを行うに当たり、中学校に引継ぐべき内容について、保護者と確認しました。

保護者との打合せ

- 「学校生活支援シート」をもとに、保護者の意向を十分に聞き取りました。



保護者

本人が理解して、自分から行動できるように中学校でも学習内容などをあらかじめ丁寧に説明してほしいです。

引継ぎ会に向けた確認

- 保護者の了承を得て、「学校生活支援シート」の写しを、中学校の特別支援教育コーディネーターに渡すことにしました。
- Dさんの国語の学習の状況について理解してもらうために、Dさんが書いた日記と通級指導学級で行った学習プリントを保護者にお借りして、引継ぎ会で紹介することにしました。
- 引継ぎ会の日時と当日の出席者、中学校側の窓口となる先生を保護者に伝えました。



引継ぎ会



■ 直接参加しなくても引継ぎ会の内容が分かっているので安心してお任せできます。

引継ぎ会の開催後

E先生



実施後、引継ぎ会での様子や話題にのぼったことなどを伝えることで、保護者はさらに安心します。

また、入学後、受ける側の中学校の担当者からも、引継ぎを受けた内容を伝えてもらい、「学校生活支援シート」の作成の相談を進めるとスムーズです。

引継ぎ会では、支援の内容を引き継ぐだけでなく、シートの作成方法についても引き継いでおくと、新年度、保護者も安心して作成に参加できます。

Dさんの「学校生活支援シート」(抜粋)

1 学校生活への期待や成長への願い (こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育てほしい、など)

本人から	みんなと仲良くしたい。 中学校では、運動部に入りたい。
保護者から	「わかりません。」など、自分の思っていることを言えるようになって欲しい。人に迷惑をかけないよう、必要なマナーを身に付けて欲しい。

2 現在のお子さんの様子 (得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

- ・以前に比べると、攻撃的な話し方が少なくなった。
- ・学校での友達関係や授業でうまく答えられなかったことなど、学校での失敗を気にして、家庭でイライラする様子が見られる。
- ・文章の読みとりは苦手だが、計算と運動が得意で、走るのには自信がある。

3 支援の目標

- ・学級の中で良好な対人関係を保てるよう支援する。
- ・よさを大いに認め、自信を維持できるようにする。

学校の指導・支援	家庭の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・その場に適切な言葉遣いや態度について、本人が理解できるよう指導する。 ・国語科を中心に、文の内容理解の確認を重点的に行う。 ・体育祭などスポーツ系の行事や活動では、活躍をほめ、周りに紹介するなどして自信をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰ってから寝るまでの行動ができるだけスムーズに進むように、声かけを行う。

4 支援機関の支援

在籍校	○年度 6年 ○組 担任名: ○○ ○○ 年度 年 組 担任名: 年度 年 組 担任名:
通級指導学級	支援機関: △△小学校○○学級 担当者: ○○ ○○ 連絡先: ○○○-○○○-○○○○ 支援内容: 教科の補充(簡単な文章の読み取り)、友達とのかかわり方、会話のルールの学習 支援期間: ()~()

5 支援会議の記録

日時 平成○年○月○日 : ~ :	参加者: 管理職、担任、保護者、△△小学校通級指導学級担任、特別支援教育コーディネーター	協議内容・引継事項等 今後の支援について、中学校への引継ぎについて
-------------------------	--	--------------------------------------

6 成長の様子

- ・通級指導学級に通うようになり、本人が自分の気持ちを整理できたり、じっくり話を聞いてもらうことができ、理解してもらえる安心感が得られたようです。気持ちが安定し、家庭での負担がかなり軽減されました。
- ・通級指導学級での指導を受けて、学級の中で意識的に本人の得意な学習や活動を取り上げてほめるようにしたところ、友達への攻撃的な言動はだいぶ少なくなってきました。
- ・中学校との交流行事や、保護者の方と中学校の音楽祭を見学したことにより、中学校生活への意識が少しずつ向いてきたようです。新しいことへの不安を強く感じやすいので、今後も少しずつ慣れていくような支援が必要です。

7 来年度への引継ぎ

- ・中学校でも、本人の気持ちを表す場を作り、安定をさせることで学習や活動への取り組みをスムーズにする支援を希望します。また、学校や家庭での生活の中で起こったことが後の活動に影響することが多く見られるので、学校と家庭の連絡を密にし、細かくそれぞれの場面での様子を伝え合いながら、家庭と学校の双方で本人を支える体勢を作っていくとよいと思います。
- ・国語など、文章を読むことが中心の学習には特に強く苦手意識があるので、丁寧な指導をお願いします。

事例3

中学校3年生のFさん。知的障害特別支援学級に在籍しており、卒業後は地域の都立知的障害特別支援学校の高等部に入学することになりました。

担任のG先生は、保護者がより生活に結び付いた学習の充実や自立に向けた指導を期待していることを、丁寧に伝えたいと思いました。また、特別支援学校の高等部への入学に当たって、今から準備しておいたほうが良いことや心構えについて聞き、学校での支援のまとめに生かしたいと考えました。そこで、保護者の了解を得て、Fさんの入学前に特別支援学校の教員との引継ぎ会を行うことにしました。

G先生



入学後に行う予定の保護者を交えた引継ぎ会の前に必要な情報を伝えるとともに、高等部入学に向けて準備しておく必要のあることを知るために、教員間での事前引継ぎを行いたいと思います。

入学後、私からも高等部の先生方にお話しますが、あらかじめG先生から伝えてもらえると安心できます。

保護者



引継ぎ資料の確認



- G先生は、日頃から「学校生活支援シート」や個別指導計画、支援会議の記録などを1冊のファイルにまとめ、毎日の指導や保護者との面談に活用しています。
- G先生は、ファイルから必要な資料を選び、保護者と相談して、引継ぎ時に資料として提供することにしました。
- Fさんの学習の様子が分かるプリントや作品等も、保護者と相談して選びました。
- 保護者と相談し、「学校生活支援シート」と個別指導計画の写しを、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターに渡しました。

中学校の特別支援教育コーディネーターでもあるG先生は、自校の副校長から特別支援学校の副校長に連絡をしてもらい、高等部へ入学した後に、引継ぎ会を行うことにしました。

引継ぎ会の参加者や内容、日時・場所等は、G先生が特別支援学校の特別支援教育コーディネーターと調整し、決定しました。

引継ぎ会の実施

引継ぎ会

実施日：3月〇日（約1時間）

参加者：・中学校担任

・特別支援学校の関係者 3名

（高等部の学部主任

高等部の特別支援教育コーディネーター、

中学部の特別支援教育コーディネーター）

場 所：〇〇特別支援学校 会議室



保護者は、教科で学んだことが生活の中で生かせるようになってほしいと願っています。特に、量や重さの見当をつけるのが苦手であることに不安を感じているようです。

本人も、学習に苦手意識が強いので、自信をもって取り組めるように支援していただきたいと思います。

高等部では、教科の学習だけでなく、作業学習などの時間で、身に付けた知識を実際の経験で生かす学習を行います。Fさんの課題に応じた作業内容を工夫したいと思います。

特別支援教育
コーディネーター



家庭と同じ方針で基本的な生活習慣の指導をされているのは良い取組ですね。高等部でも通学や実習先でのマナーなど、家庭と連携して指導を行っていきます。

学部主任



保護者には、これからも家庭での手伝いや、学習への支援を継続するように伝えます。

系の活動などには意欲的に取り組みますので、高等部でも自信がもてるような役割をお願いします。

■ 入学式や初めての登校が不安でしたが、あらかじめ担任の先生から子供の様子を伝えていただいたことで安心して高等部生活がスタートできそうです。

■ 引継ぎ会でどのような話がされたかが分かり、4月の面談で伝えるべきことが整理できました。



学校生活支援シート (個別の教育支援計画)

平成〇年度作成

このシートは、お子さんの学校生活を充実したものにするため、御家族と学校、関係する様々な立場の人が、お子さんをどのように支えていくか話し合い、記録していくものです。
 お子さんが、充実した豊かな学校生活を送ることができるよう、学校での学習や家庭での生活について、一緒に考えていきましょう。

フリガナ		性別	学年・組
氏名	〇〇 〇〇	女	3年〇組
学校	〇〇市立〇〇中学校	校長名	〇〇 〇〇
		担任名	□□ □□
備考			

1 学校生活への期待や成長への願い (こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育てほしい、など)

本人から	・勉強を頑張りたい。
保護者から	・社会へ出て働くための知識や社会性を身に付けて欲しい。 ・ひらがなを完全に読み書きする。 ・簡単な計算 ・時計と時間の概念 ・お金の概念

2 現在のお子さんの様子 (得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

<ul style="list-style-type: none"> ・数多くの人と自らコミュニケーションをとって知り合い、友人になれる。引っ越してきた方々には良く感謝される(いろいろなことを教えてあげる等)。 ・トイレトペーパーの使用量やペットのドッグフードなどを、必要以上に大量に使ったり、あげたりしてしまう。いくら注意しても改善される様子がない。
--

3 支援の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人や友達との様々な場面での関わりに、けじめをつけ、学習に向かう姿勢や態度を身に付ける。 ・その場に応じた言葉遣いに自ら気を付けられるようにする。 ・具体的目標をもって、時間を意識して生活・行動する。 	
学校の指導・支援	家庭の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・友達や周囲の人と良好な関わり合いが行えるように、場面に応じて本人に理解しやすいように具体的に説明、指導する。 ・小集団での学習への参加を促し、基礎学力が身に付くように指導する。 ・礼儀やマナー、言葉遣い等は、生活の中で日常的に気をつけられるようにする。 ・基本的な生活習慣の指導について家庭と同一の指導ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での手伝い決めて、毎日行えるようにする。(洗濯物の取り込み。お風呂掃除。靴をそろえる。食事の仕度の補助など。) ・宿題は、できるだけ自分から進んでできるようにし、時々、様子を見て声をかける。

4 支援機関の支援			
在籍校	○年度	1 年 ○ 組	担任名：○○ ○○
	○年度	2 年 ○ 組	担任名：○○ ○○
	○年度	3 年 ○ 組	担任名：○○ ○○
余暇・地域生活	支援機関：	NPO法人 ○○○○ ○○○会 担任者：○○さん	連絡先：○○○-○○○-○○○○
	支援内容：	コミュニケーション(ソーシャルスキルトレーニング)、音楽活動、スイミング、キャンプ他余暇活動(毎週水、木、金、土曜日)	
	支援期間：	(平成○○年)～(現在継続中)	
余暇・地域生活	支援機関：	○○○○○○○福祉センター 担任者：○○先生	連絡先：○○○-○○○-○○○○
	支援内容：	絵画教室(月2回 第○、第○土曜日)	
	支援期間：	(平成○○年)～(継続中) 平成○○年現在、家庭の都合で利用を控えている。	
	支援機関：	担任者：	連絡先：
	支援内容：		
	支援期間：	()～()	
	支援機関：	担任者：	連絡先：
	支援内容：		
	支援期間：	()～()	

5 支援会議の記録		
日時 平成○年○月○日 ○：○○～○：○○	参加者：保護者、本人、担任、特別支援教育コーディネーター	協議内容・引継事項等 ・学校・家庭での本人の様子を確認 ・支援計画の確認、当面の支援について
日時 平成 年 月 日 ： ～ ：	参加者：	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 ： ～ ：	参加者	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 ： ～ ：	参加者	協議内容・引継事項等
日時 平成 年 月 日 ： ～ ：	参加者	協議内容・引継事項等

6 成長の様子
<ul style="list-style-type: none"> ・不得意であったひらがな書写や数の理解は、学習の積み重ねにより着実に進歩が見られた。 ・学習に対する苦手意識が少なくなり、自信のある学習には自分から進んで取り組む姿も見られた。 ・行事や学級活動に対して非常に意欲的であり、係や役割に積極的に取り組めた。
7 来年度へ引き継ぐこと
<ul style="list-style-type: none"> ・将来の社会自立に向けて、礼儀作法、身だしなみ、報告・連絡・相談等、社会性を身に付ける学習をさらに進めてほしい。 ・数・量や時間、金銭など、生活に必要な数学を重点的に行ってほしい。 ・学習には苦手意識があるので、自信をもたせる言葉かけや指導をしてほしい。

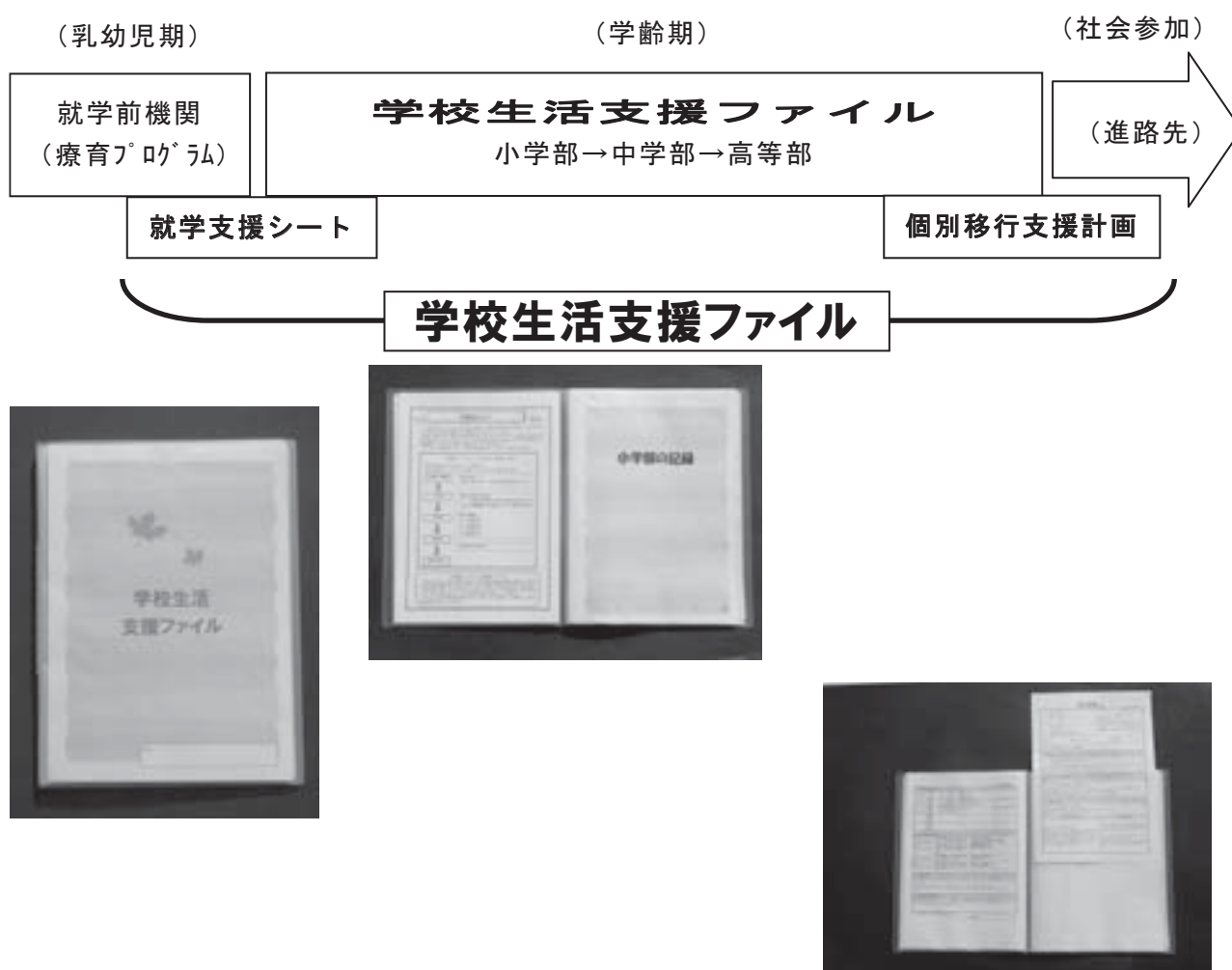
以上の内容について了解し確認しました。

平成 年 月 日 保護者氏名 _____

2 「学校生活支援ファイル」の実践

「学校生活支援ファイル」とは、「就学支援シート」、「学校生活支援シート」、「個別移行支援計画」等を一冊のファイルにまとめ、児童・生徒一人一人の一貫性のある支援の実施に役立てていくものです。「学校生活支援ファイル」は、保護者が保管し、教育（学校）だけでなく、保健・医療や福祉など、他の関係機関に支援を依頼する際にも活用できるようにします。

「学校生活支援シート」に記載できる情報量は限られますので、内容が更新された際などには、「学校生活支援ファイル」に過去の記録が蓄積されていることで、児童・生徒一人一人の成長・発達の様子や支援の経過を振り返ることができます。



1冊のファイルに、乳幼児期からの様々な記録や「学校生活支援シート」を閉じ込んでいくことで、子供の成長の過程を改めて振り返ることができました。

保護者の工夫しだいで、ファイル全体の構成をアレンジできるので、オリジナルな支援ファイルをつくることもできます。



保護者の方へ

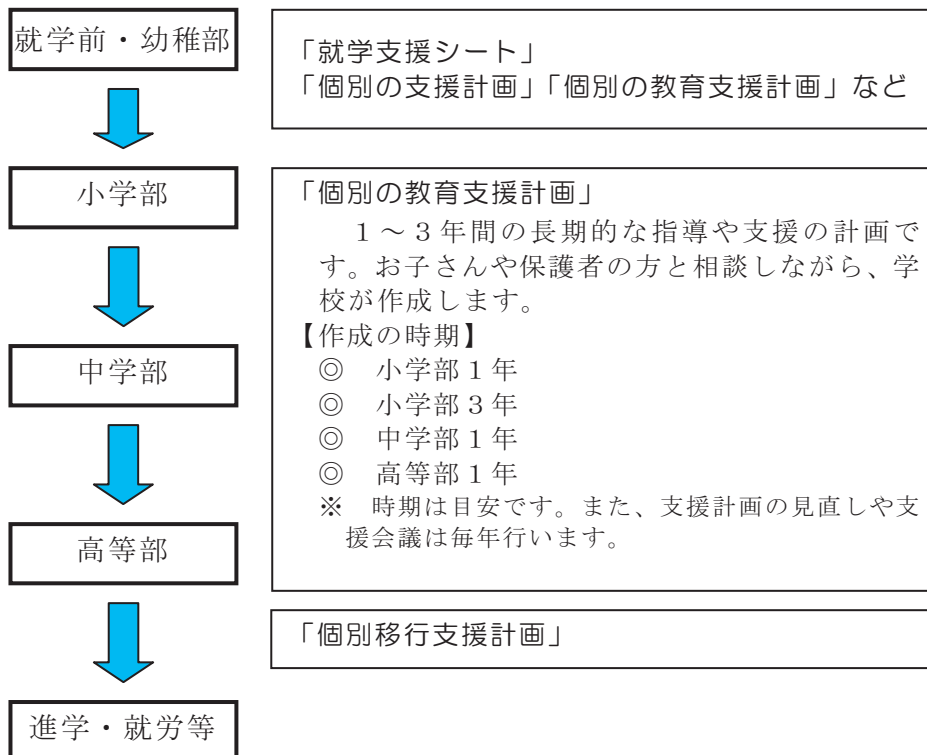
この「学校生活支援ファイル」は、お子さんが安心して豊かな学校生活を送ることができるよう、学校生活に関わる資料などを整理するためのファイルです。

学校から渡される「個別の教育支援計画」などを保管し、お子さんの成長やよい影響のあったかわり方、支援の仕方等を振り返り、新しい学校や担任、医療や福祉等の支援機関との相談の際に御活用ください。

「学校生活支援ファイル」へとじ込む「計画」の例

進路や進学先は、お子さんによって様々です。

特別支援学校では、次のような指導・支援のための計画を作成します。



「学校生活支援ファイル」の活用について

学校内での学年・学部の引継ぎや転学・進学の際の学校間の指導の引継ぎは、各学校や担当の教員が責任をもって行いますが、新しい学校との面談等でお子さんの様子についてお話する際に、このファイルを示すことで、以前のお子さんの様子やこれまでの支援の歩みをより理解してもらいやすくなります。病院や相談センター等への相談で、ファイルの内容を基に話し合いを進めるなどの活用も考えられます。

ファイルには個人情報が多く含まれます。保管には十分御注意いただき、活用について心配なことがあれば、担任や担当の教員に御相談ください。

A視覚障害特別支援学校の実践

対象生徒について

- ◆ 中学部3年生。普通学級に在籍しているが、一部の教科については個別の配慮を行いながら学習を行っている。
- ◆ 文字は点字を使用している。数学のみは文字を200ポイント程度に拡大したプリントを、教科書代わりに使用している。
- ◆ 階段や横断歩道などでは白杖を利用している。中学2年生時より、一人通学の練習を開始した。
- ◆ 発音がやや不明瞭で、相手に正しく伝わっているか、常に不安に感じている。言葉で気持ちや思いを伝えることができるようになることを目標としている。
- ◆ 本校高等部への進学を希望している。

「学校生活支援ファイル」の作成

【保護者の思い】

- 保護者は、生徒が、伝えたい思いを十分に伝え切れていないことから、生徒が様々な人と関わることに消極的になりがちであることを心配しており、円滑なコミュニケーションに向けた支援を必要としていました。

【保護者との面談】

- 保護者との面談を行い、担任、特別支援教育コーディネーターから「学校生活支援ファイル」を作成し、相談を受けている教育機関への相談や、高等部への引継ぎ時に活用することを説明しました。

「学校生活支援ファイル」の活用

＜支援機関への相談時＞

- ・ 保護者が「学校生活支援ファイル」を示し、現在の生徒の様子や受けている支援等について説明する。

＜年度末＞

- ・ 面談の際、保護者が持参し、学校からもらった「学校生活支援シート」をとじ込む。

＜引継ぎ時・年度当初＞

- ・ 保護者がファイルを持参し、生徒の成長の様子や継続して欲しい支援の手だてについて伝える。

生徒に応じた活用の工夫

- 生徒の見え方について具体的に説明しやすいよう、「学校生活支援ファイル」に、点字の一覧表と生徒が使用しているプリントの見本をとじておきました。支援機関への相談時に、「学校生活支援シート」の記述を参考に、保護者が生徒の具体的な見え方や必要な支援について伝えました。

「学校生活支援シート」の記入例

本人	フリガナ		性別	生年月日	
	氏名	A		平成〇年×月×日生	
	住所		保護者氏名	〇〇 〇〇	
			緊急連絡先	□□□-□□□□-□□□□	
	障害名		愛の手帳	度	(平成 年 月 交付)
身障手帳			1種1級	(平成〇年〇月 交付)	
障害の様子	視力 右 〇.〇〇 左 〇.〇〇 中心部が見えにくい。				
学校	都立〇〇盲学校(□□□-□□□□)			校長名	〇〇 〇〇
				担任名	〇〇 〇〇
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・点字を使用。 ・白杖は、交差点や夜間での安全確保のため使用。 				

1 学校生活への期待や成長への願い(こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育ってほしい、など)

本人から	今：外でたくさん遊びたい。 将来：仕事をがんばりたい。
保護者から	本人の興味の範囲を広げ、自分にあったものを見つけてほしい。

2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

- ・まじめで、一つの事に集中して取り組むことができる。負けず嫌いでどんなことでも、一番になりたいという向上心がいつもある。
- ・コミュニケーションを取るのが上手でないので、健常者はもちろんのこと視覚に障害をもっている方との会話等がスムーズにいかないのではと思う。
- ・学習時は点字を使用。数学のみは拡大プリント(文字の大きさ200ポイント)を使用している。

(中略)



5 支援会議の記録

日時 平成〇年〇月〇日 〇:〇〇~〇:〇〇	参加者：保護者、担任、特別支援教育コーディネーター、支援機関の担当者	協議内容・引継事項等 言語・コミュニケーションの指導について
-----------------------------	------------------------------------	-----------------------------------

6 成長の様子

- ・一人通学の指導をスタートさせ、2年生の〇月から下校、〇月からは登校指導も始めた。下校のほうはだいぶ慣れてきたので、今後も継続して指導を行っていく。
- ・3年生の〇月から、登下校とも1人で行えるようになった。今後は非常時等に適切な援助の依頼ができるように支援していく。来年度はコミュニケーションの専門家との連携を図りながら指導していく。
- ・コミュニケーションの広がりを図るための支援を行った。

7 来年度への引継ぎ

- ・登下校が一人で行えるようになってきたので、引き続き指導を継続し、非常時の対応も行えるようになってほしい。
- ・余暇を充実させるような活動を、学校でも家庭でも充実させていきたい。
- ・コミュニケーションの指導は、今後、専門家と連携しながら進めていく。

- 「学校生活支援シート」を作成することで、改めて子供の障害や必要な支援について考えることができました。
- 支援機関等へ子供の様子を説明する際に、資料がまとめてファイルになっていることで、必要な内容を確実に伝えられ、担当者からの質問にも答えることができました。



B知的障害特別支援学校の実践

対象児童・生徒について

小学部6年生 18名

中学部3年生 3名

- ◆ 学部・学校間の引継ぎの対象となる学年の児童・生徒を対象に、「学校生活支援シート」「学校生活支援ファイル」の作成・活用を実施し、課題を整理した。
- ◆ 安心とつながりをキーワードに、保護者の思いを受けとめ、作成や支援への保護者の主体的な関わりを重視した作成方針を校内で共通理解し、取り組んだ。

「学校生活支援ファイル」の作成

【校内の共通理解】

- 特別支援教育コーディネーターを中心に、「学校生活支援ファイル」の作成方法等を整理し、校内で共通理解を図りました。

B特別支援学校の「学校生活支援ファイル」基本方針

- ◆ 「保護者の安心」を大事に、保護者の思いや願いを受け止めながら「学校生活支援シート」を作成する。
- ◆ 「支援のつながり」を意識した引継ぎを行う。
- ◆ 保護者が主体的に関わることを重視し、「学校生活支援ファイル」を作成し、引継ぎで活用する。

【作成の流れ】

- 全体保護者会で、特別支援教育コーディネーターから「学校生活支援ファイル」の作成について説明をしました。
- 学級担任から「学校生活支援ファイル」を手渡しました。
- 担任から「学校生活支援シート」の作成について説明し、保護者と相談しながら作成しました。
- 年度末の面談の際に、保護者が「学校生活支援ファイル」を持参し、今年度の「学校生活支援シート」をとじるようにしました。

「学校生活支援ファイル」を活用した引継ぎの例

- 小学部6年のBさんは、6年生の2学期に小学校から転入してきました。
- 保護者は、「学校生活支援ファイル」に、これまで他校で作成した個別の教育支援計画や個別指導計画もとじ込んでおきました。
- 中学部への支援の引継ぎ時には、転入前の学校での指導や支援の経過も知ることができ、Bさんの学校生活全般を引継ぐことができました。
- 引継ぎの場に、「学校生活支援ファイル」を持ってきていただくことで、保護者が主体的に引継ぎに関わることができました。

「学校生活支援シート」の記入例

4 支援機関の支援			
在籍校	年度 ○年度 ○年度	年 組 5 年 ○ 組 6 年 ○ 組	担任名： 担任名：○○ ○○ 担任名：○○ ○○
余暇	支援機関： 支援内容： 支援期間：	○○デイサービス デイサービス 週2回 ()～()	担当者： 連絡先：
余暇	支援機関： 支援内容： 支援期間：	○○ハウス デイサービス 週1回 ()～()	担当者： 連絡先：
余暇	支援機関： 支援内容： 支援期間：	△△クラブ 週1回程度 ()～()	担当者： 連絡先：
医療・健康 ／ 教育相談	支援機関： 支援内容： 支援期間：	○○療育センター 医療相談 月1回 ()～()	担当者： 連絡先：
医療・健康 ／ 教育相談	支援機関： 支援内容： 支援期間：	□□クリニック 医療・教育相談 月1回 ()～()	担当者：
地域指定 校との交 流	支援機関： 支援内容： 支援期間：	○○市立△△小学校 直接交流 学期に2回 ()～()	担当者：

支援会議の内容や具体的な役割分担等は別の記録用紙に記入しました。

5 支援会議の記録		
日時 平成○年○月○日 ： ～ ：	参加者：本人、母、担任、△△小学校6年担任、△△小学校特別支援教育コーディネーター	協議内容・引継事項等 本年度の直接交流の内容確認、日程調整

6 成長の様子
<ul style="list-style-type: none"> 写真カードや予定表により、見通しをもって生活できる場面が増えた。学習にも意欲的に取り組むことができた。 ⇒家庭、余暇活動でも同じような写真カードを活用している。 生活のリズムが安定し、落ち着いた学校生活を送ることができた。

7 来年度への引継ぎ
<p>[保護者から]</p> <ul style="list-style-type: none"> 視覚的な情報を活用して予定を確認するなど、情報を混乱なく理解できるようにしてほしい。大声を出したときなどに注意をされても、その場だと混乱していると思うので、落ち着いてから説明するようにしてほしい。 <p>[担任から]</p> <ul style="list-style-type: none"> ことばだけのかかわりを極力控え、視覚的な情報を中心にかかわってほしい。特に、注意を受けたときの否定的な表現だけはずっと覚えており、不安定になったときに繰り返し言うことがあるため、穏やかに対応することが必要。反面、賞賛されて時に笑顔が見られることが多いため、できないことにはではなく、できることに積極的に目を向けた「ほめる」支援を中心に家庭と連携して支援してほしい。

支援会議の記録

児童・生徒 氏名	小学部 中学部 高等部 () 年 氏名 ()
日 時	年 月 日 曜日 ～
場 所	
参加支援機関名 及び 担当者氏名	*東京都立△△特別支援学校 氏名 () () * 氏名 () () * 氏名 () ()
内 容 等	
保護者・総括	○御感想をお願いします 保護者署名： ()



■ 今まで転校が多かったので、これまでの指導や支援を一冊にまとめて見返したり、先生に見てもらったりできると安心できます。

C肢体不自由障害特別支援学校の実践

対象児童・生徒について

小学部6年 9名

中学部3年 14名

◆ 学部・学校間の引継ぎの対象となる学年の児童・生徒を対象に、引継ぎや支援機関との連携に効果的な「学校生活支援シート」の項目・様式の検討を行った。

「学校生活支援ファイル」の作成

- 肢体不自由特別支援学校では、医療や福祉等の支援機関との連携が重要であるため、福祉機関の利用状況や支援会議に関する記載欄を充実させる必要があります。そこで、C特別支援学校では、「学校生活支援シート」の書式を基本に、児童・生の身体状況や支援機関との連携、支援会議の内容等を記録するシートを追加し、C特別支援学校独自の「学校生活支援シート」を作成しました。

C特別支援学校の「学校生活支援シート」

学校生活支援シート (個別の教育支援計画)

本人	フリガナ		性別	平成〇年〇月〇日生	
	氏名	C		平成〇年〇月〇日生	
	住所		保護者氏名	〇〇 〇〇	
			緊急連絡先	□□□-□□□□-□□□□	
	障害名		愛の手帳	度	(平成 年 月 交付)
身障手帳			1種1級	(平成 年 月 交付)	
障害の様子					
学校	都立〇〇特別支援学校		校長名	〇〇 〇〇	
			担任名	〇〇 〇〇	
備考	平成〇年度 〇〇特別支援学校より転入				

表面

1 学校生活への期待や成長への願い (こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育ってほしい、など)

本人から	
保護者から	家族以外の人とコミュニケーションがとれるようになってほしい。

2 現在のお子さんの様子 (得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

ほしいものや興味のあるものに、自分から手を出す場面が増え、手の使い方が向上しつつある。筋力もつき、座っている時間が長くなってきた。起き上がるのも早くなった。意欲的に学習に取り組んでいる。排泄(尿)の回数が少なく、保護者も心配している。保護者は病院の検査を希望しているが、尿検査用の尿がなかなかとれないため検査はできていない。

3 支援の目標

- ・基本的な生活習慣を確立する。
- ・身体動作の向上
- ・感情を豊かに表現し、コミュニケーションの力をつける。

学校の指導・支援	家庭の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の指導の中で、排泄の有無を本人に確認してから排泄指導をする。 ・学校生活の中で、立位や歩行の場面をなるべく多くつくったり、腹筋運動を行い、筋力と身体動作の向上に努める。 ・学校生活のあらゆる場面において、発声や握手等で意思表示をする機会を多くつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅の廊下を毎日、保護者や兄弟と一緒に歩く。 ・自宅では兄弟との遊びの中で、コミュニケーションをとっており、実際に兄弟の言葉遣いを真似ることもある。

